

第 2 回課題調査

第Ⅱ部 調査結果の概要

調査結果の概要

【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問では、その比率(%)の合計が100%を上回ることがある。
- ・ 文中の「n」は、「Number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。
例：問17で「伝えている」と「どちらかといえば伝えている」を合わせたものを《伝えている》と表現している。
また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

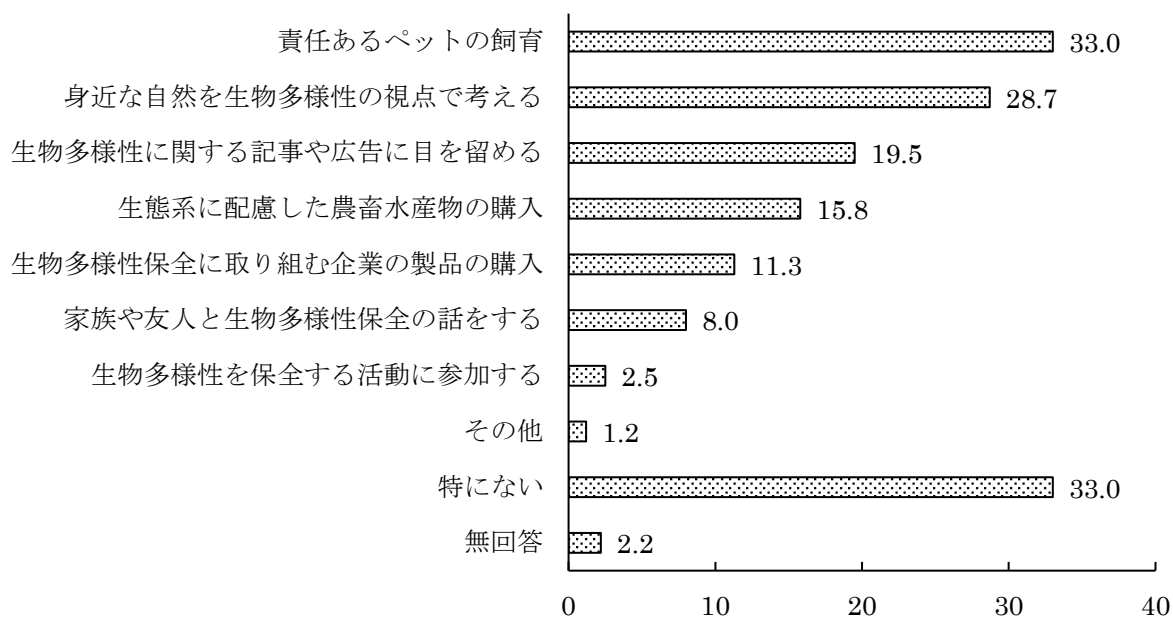
1 生物多様性（問1～問3）

県では、生物多様性の保全に取り組んでいます。今回、生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることなどについて調査しました。

▼生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること（問2）

生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることを複数回答で尋ねたところ、「責任あるペットの飼育」が33.0%で最も多く、次いで「身近な自然を生物多様性の視点で考える」が28.7%であった。[図表1]

図表1 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること
(複数回答) (n=1,277) (%)



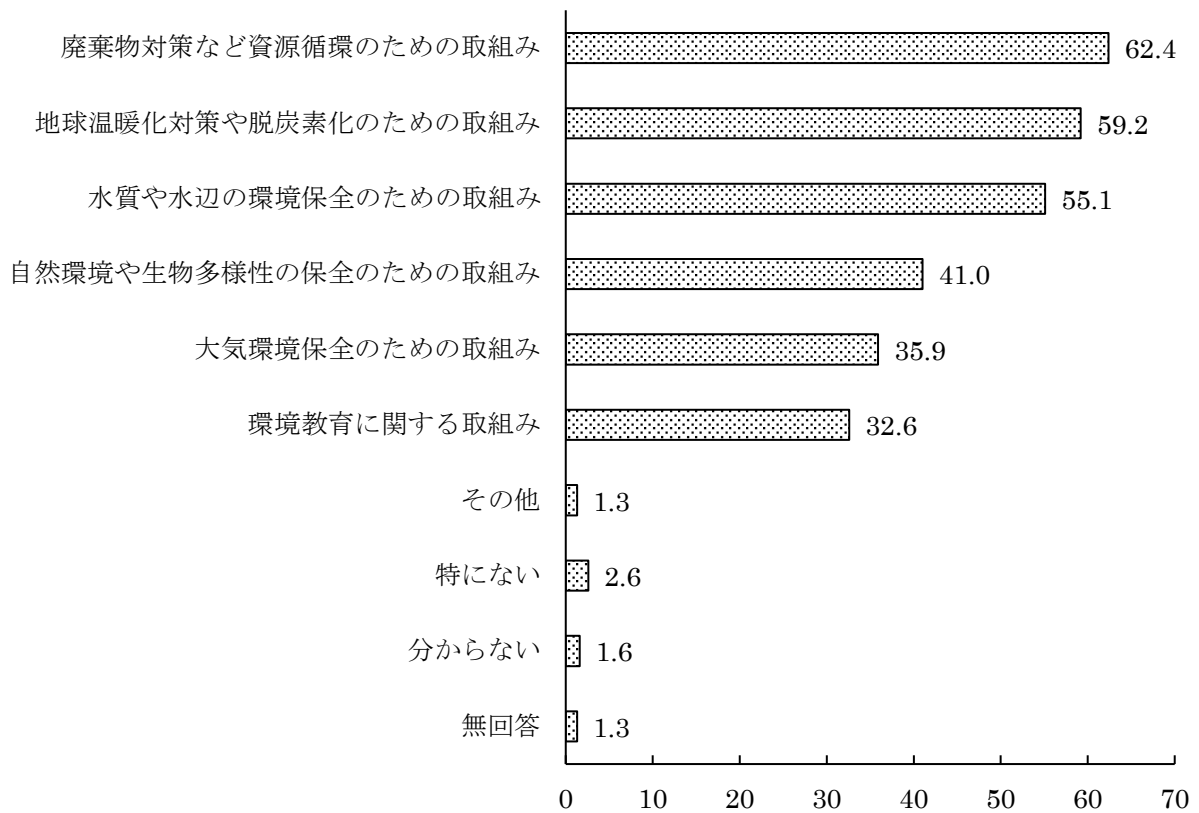
2 環境問題（問4～問7）

県では、「神奈川県環境基本計画」に基づき、環境施策を推進しています。今回、県に特に力を入れてほしい環境に関する取組みなどについて調査しました。

▼特に力を入れてほしい環境に関する取組み（問4）

特に力を入れてほしい環境に関する取組みを複数回答で尋ねたところ、「廃棄物対策など資源循環のための取組み」が62.4%で最も多く、次いで「地球温暖化対策や脱炭素化のための取組み」が59.2%であった。〔図表2〕

図表2 特に力を入れてほしい環境に関する取組み（複数回答）（n=1,277）（%）



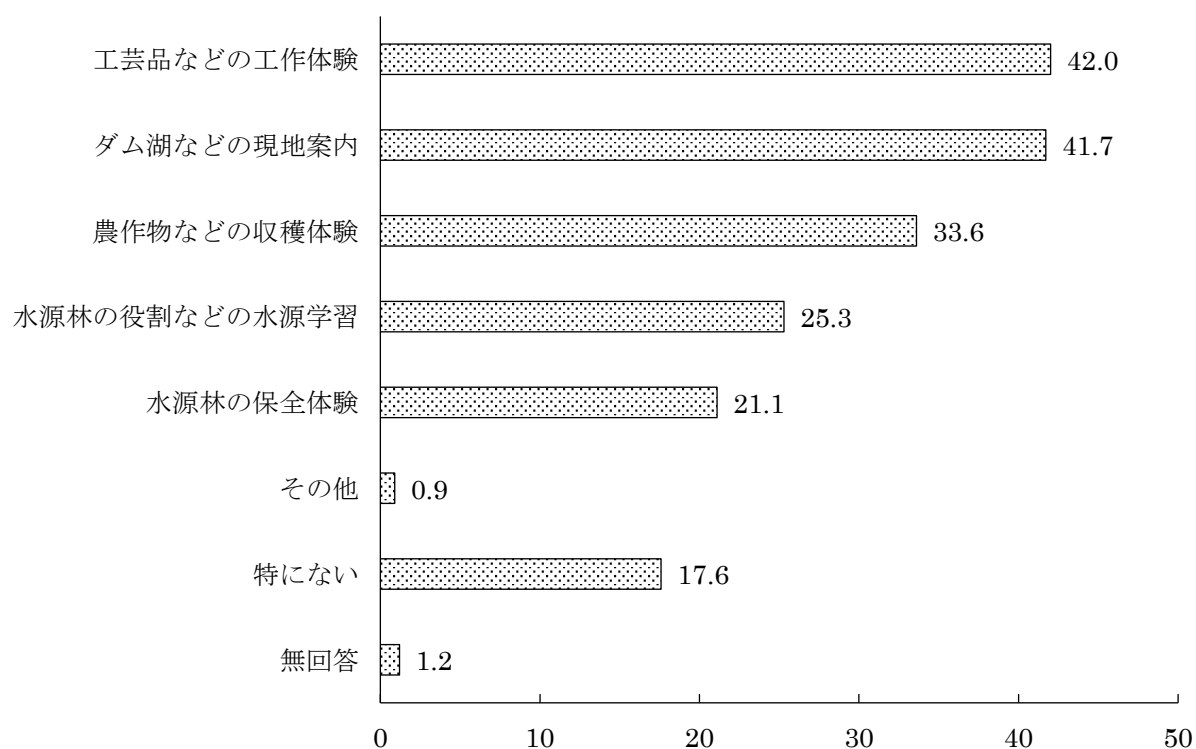
3 かながわの水源地域（問8～問10）

県では、豊かな水を育む水源地域を取り巻く環境を良好な状態で維持していくため、交流を通じた水源地域の活性化に取り組んでいます。今回、水源地域の魅力を発信する様々な活動をしている人と現地で交流する場合、体験したいと思うことなどについて調査しました。

▼現地で体験したいと思うこと（問10）

現地で体験したいと思うことを複数回答で尋ねたところ、「工芸品などの工作体験」が42.0%で最も多く、次いで「ダム湖などの現地案内」が41.7%であった。〔図表3〕

図表3 現地で体験したいと思うこと（複数回答）（n=1,277）（%）



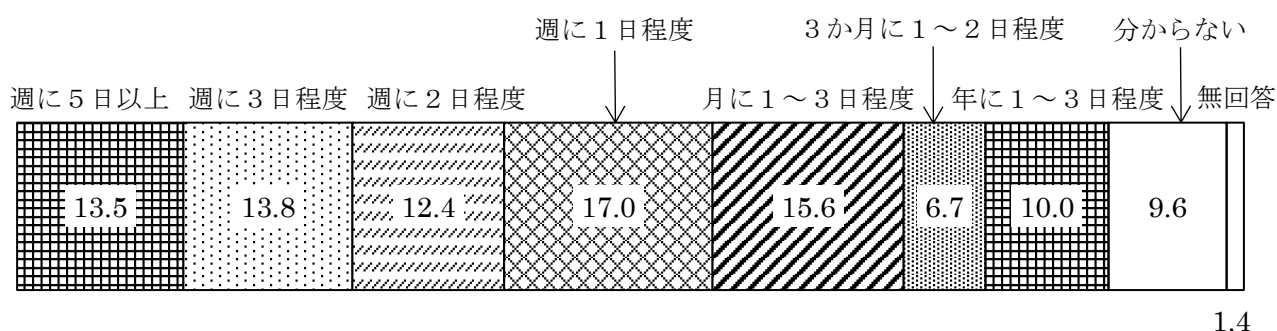
4 スポーツ（問 11～問 14）

県では、「神奈川県スポーツ推進条例」に基づき、神奈川県スポーツ推進計画「エンジョイ・スポーツ！かながわプラン」を策定し、様々なスポーツ施策に取り組んでいます。今回、1年間のスポーツ実施日数などについて調査しました。

▼1年間のスポーツ実施日数（問 12）

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「週に1日程度」が17.0%で最も多く、次いで「月に1～3日程度」が15.6%であった。[図表4]

図表4 1年間のスポーツ実施日数（n=1,277）（%）



5 自転車の利用（問 15～問 16）

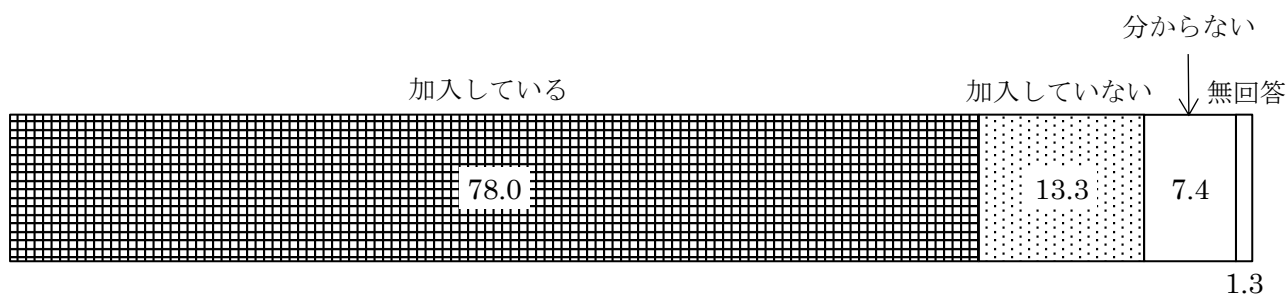
県では、自転車利用者が加害者となる重大事故の発生や全国的に自転車が関係する交通事故で高額な賠償が命じられる判決が出ている状況から、自転車の安全で適正な利用の促進と自転車損害賠償責任保険等の加入義務化を柱とした「神奈川県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」を平成31年4月に施行しました。今回、自転車損害賠償責任保険等の加入状況などについて調査しました。

▼自転車損害賠償責任保険等の加入状況（問 16-1）

自転車の利用状況（問 16）で「利用している」と回答した377人に、自転車損害賠償責任保険等に加入しているか尋ねたところ、「加入している」が78.0%であった。

一方、「加入していない」が13.3%であった。[図表5]

図表5 自転車損害賠償責任保険等の加入状況（n=377）（%）



6 かながわの広報（問17～問19）

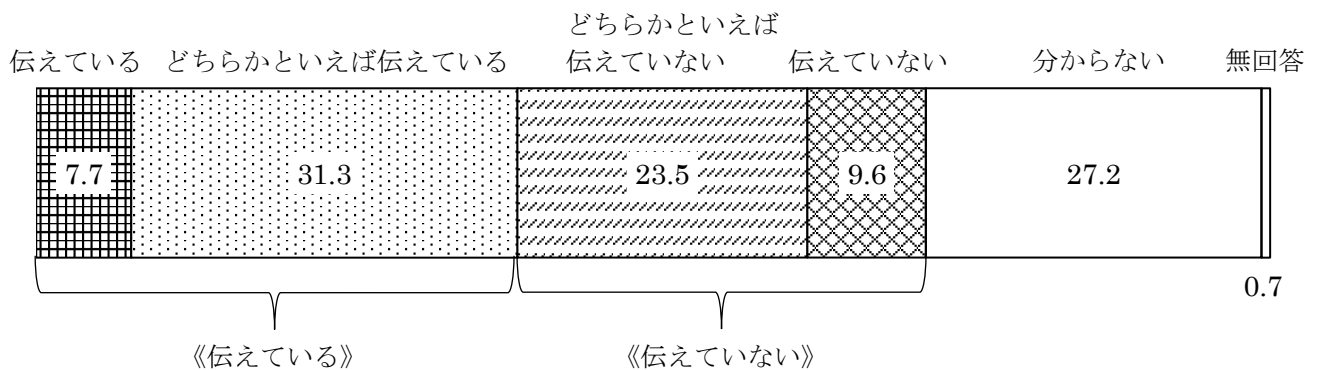
県では、「県のたより」などの広報紙や県広報テレビ・ラジオ番組、ホームページ、ソーシャルメディアなどを通じて、様々な県政情報をお伝えしています。今回は、県の広報の達成度などについて調査しました。

▼県の広報の達成度（問17）

県が県政情報を十分に伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えている」（7.7%）と「どちらかといえば伝えている」（31.3%）を合わせた《伝えている》は39.0%であった。

一方、「伝えていない」（9.6%）と「どちらかといえば伝えていない」（23.5%）を合わせた《伝えていない》は33.1%であった。〔図表6〕

図表6 県の広報の達成度（n=1,277）（%）



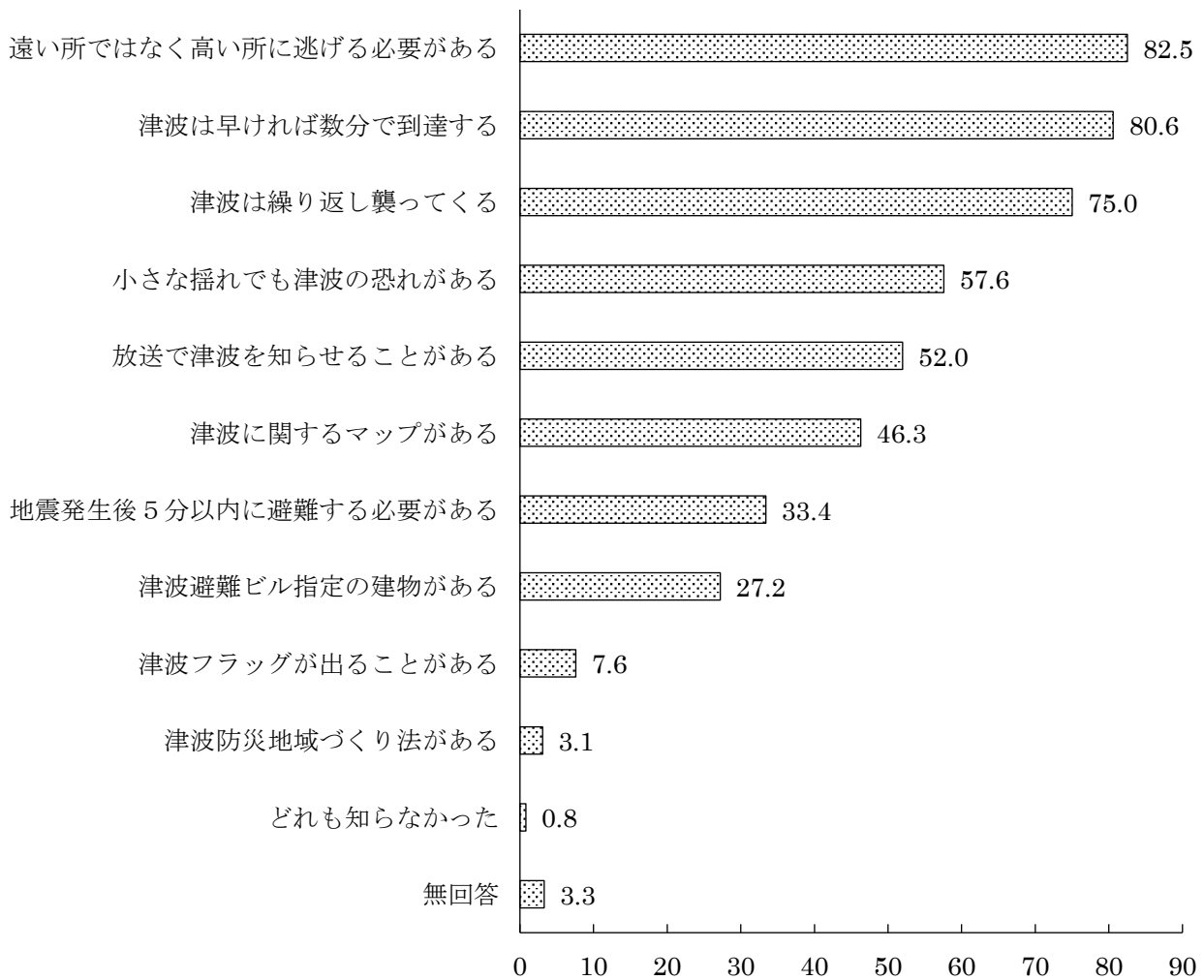
7 地震対策の取組み（問 20～問 22）

県では、「県民のいのちを守る」ことを最優先としたアクションプランである「神奈川県地震防災戦略」を策定するなど、防災・減災対策の取組みを推進しています。今回、「津波」に対する知識や理解などについて調査しました。

▼津波に対する知識や理解（問 21）

津波に対する知識や理解について複数回答で尋ねたところ、「遠い所ではなく高い所に逃げる必要がある」が 82.5%で最も多く、次いで「津波は早ければ数分で到達する」が 80.6%であった。〔図表 7〕

図表 7 津波に対する知識や理解（複数回答）（n=1,277）（%）



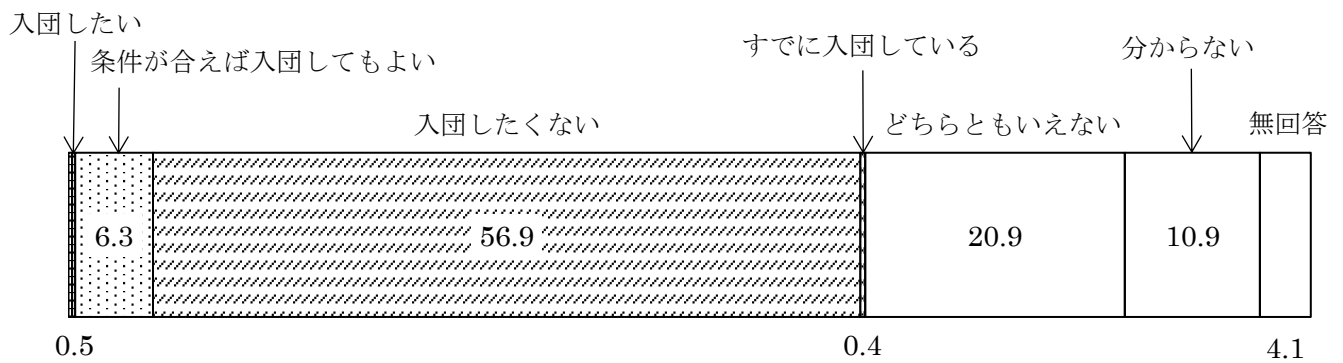
8 消防団（問 23～問 25）

県では、地域の安全・安心を支える地域防災の要である消防団の充実強化のための取組みを進めています。今回、消防団への入団意向などについて調査しました。

▼消防団への入団意向（問 24）

消防団に入団したいと思うか尋ねたところ、「入団したくない」が 56.9%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が 20.9%であった。〔図表 8〕

図表 8 消防団への入団意向（n=1,277）（%）



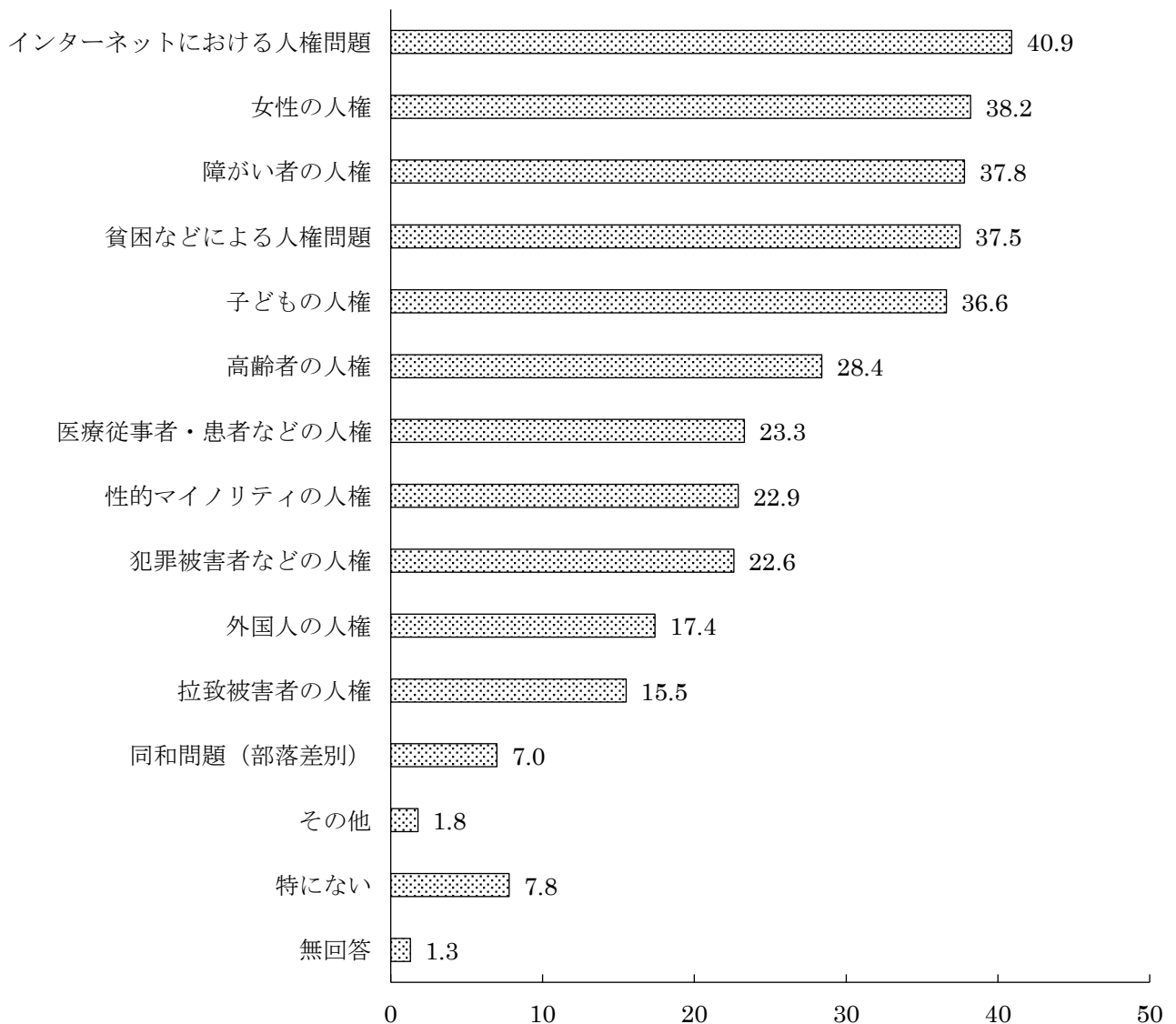
9 かながわの人権（問 26～問 28）

県では、「かながわ人権施策推進指針」に基づき、人権がすべての人に保障される地域社会の実現を目指して、取組みを進めています。今回、普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題などについて調査しました。

▼普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（問 27）

普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題を複数回答で尋ねたところ、「インターネットにおける人権問題」が40.9%で最も多く、次いで「女性の人権」が38.2%であった。[図表 9]

図表 9 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（複数回答）（n=1,277）（%）



10 青少年を保護する条例（問 29～問 30）

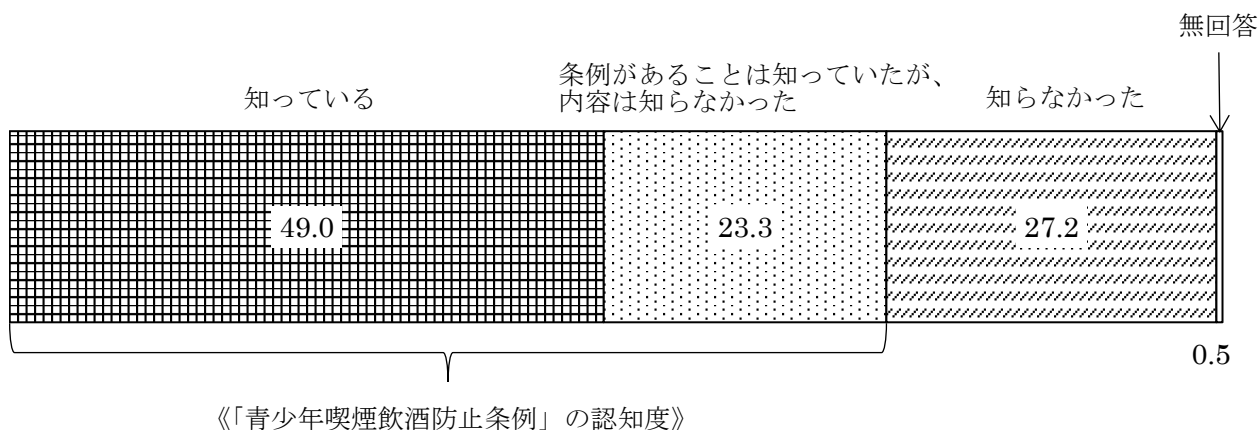
県では、青少年の喫煙及び飲酒を防止する社会環境の整備に向けて「神奈川県青少年喫煙飲酒防止条例」を制定し、青少年（20歳未満の者）の喫煙及び飲酒に関し、県、保護者、事業者及び県民の責務を明らかにするとともに、青少年の喫煙及び飲酒を防止するための社会環境の整備に取り組んでいます。今回、「青少年喫煙飲酒防止条例」の認知度などについて調査しました。

▼「青少年喫煙飲酒防止条例」の認知度（問 30）

「青少年喫煙飲酒防止条例」の内容を知っているか尋ねたところ、「知っている」（49.0％）と「条例があることは知っていたが、内容は知らなかった」（23.3％）を合わせた《「青少年喫煙飲酒防止条例」の認知度》は72.3％であった。

一方、「知らなかった」が27.2％であった。[図表 10]

図表 10 「青少年喫煙飲酒防止条例」の認知度（n=1,277）（％）



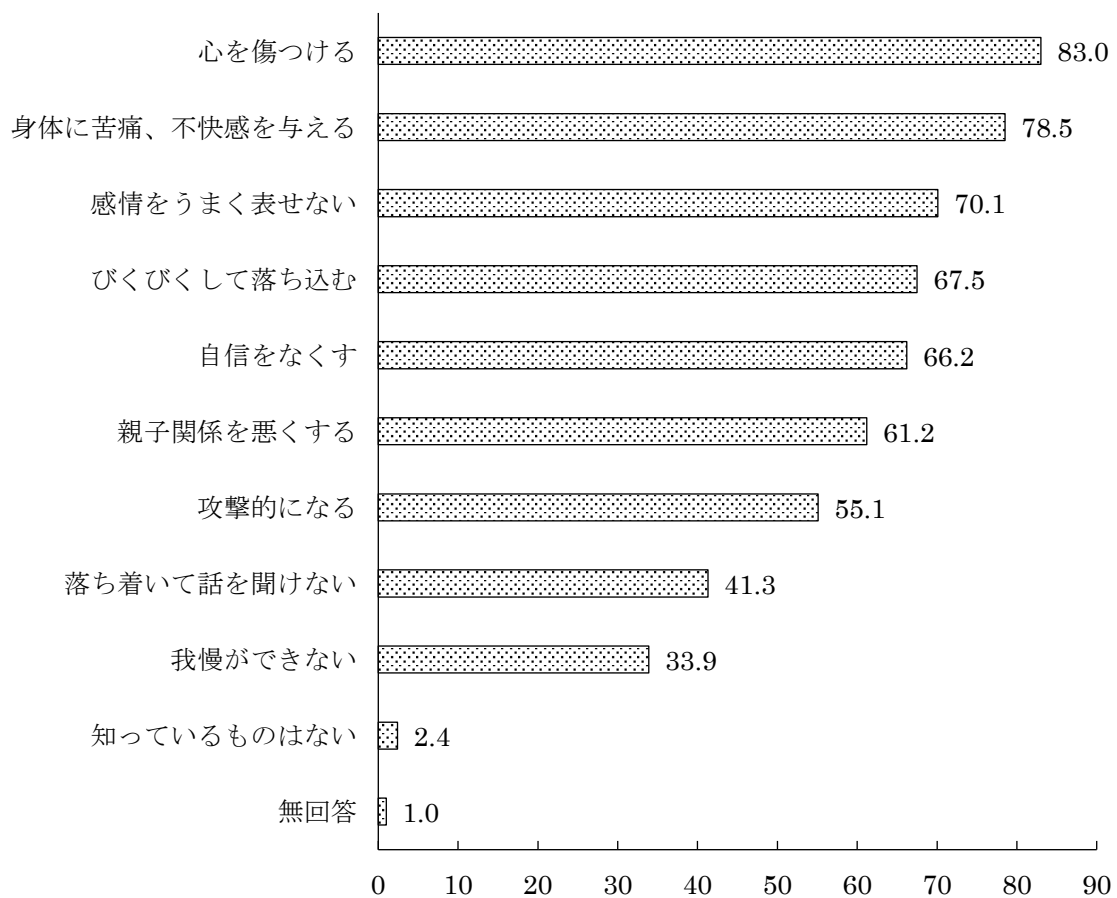
11 子育てにおける体罰の意識（問 31～問 33）

県では、令和元年6月に改正された児童虐待防止法等に盛り込まれた体罰禁止について、様々な方法により普及啓発を行い、子どもから大人まで幅広くこの認識を広げることで、虐待の未然防止に取り組んでいます。今回、体罰などが子どもに与える影響などについて調査しました。

▼体罰などが子どもに与える影響（問 32）

体罰などが子どもに与える影響について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「心を傷つける」が83.0%で最も多く、次いで「身体に苦痛、不快感を与える」が78.5%であった。〔図表 11〕

図表 11 体罰などが子どもに与える影響（複数回答）（n=1,277）（%）



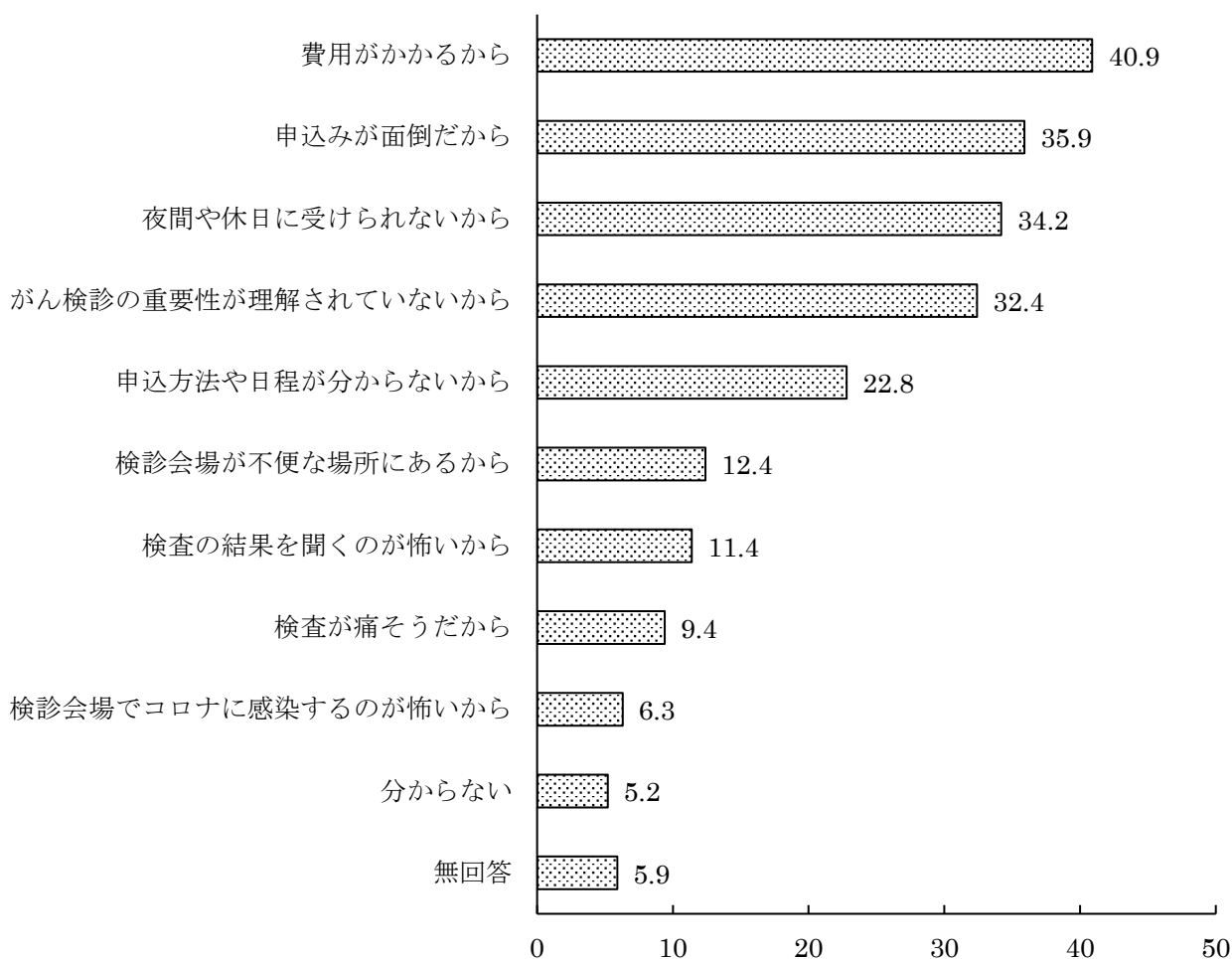
12 がん対策（問 34～問 35）

県では、昭和 53 年から死因の第 1 位になっている「がん」で亡くなる人を減らすために、がんの早期発見、早期治療につながるがん検診の受診率向上に取り組んでいます。今回、がん検診を受ける人が少ない理由などについて調査しました。

▼がん検診を受ける人が少ない理由（問 35）

がん検診を受ける人が少ない理由を複数回答（3 つまで選択可）で尋ねたところ、「費用がかかるから」が 40.9%で最も多く、次いで「申込みが面倒だから」が 35.9%であった。[図表 12]

図表 12 がん検診を受ける人が少ない理由（複数回答）（n=1,277）（%）



13 依存症に対する意識（問 36～問 38）

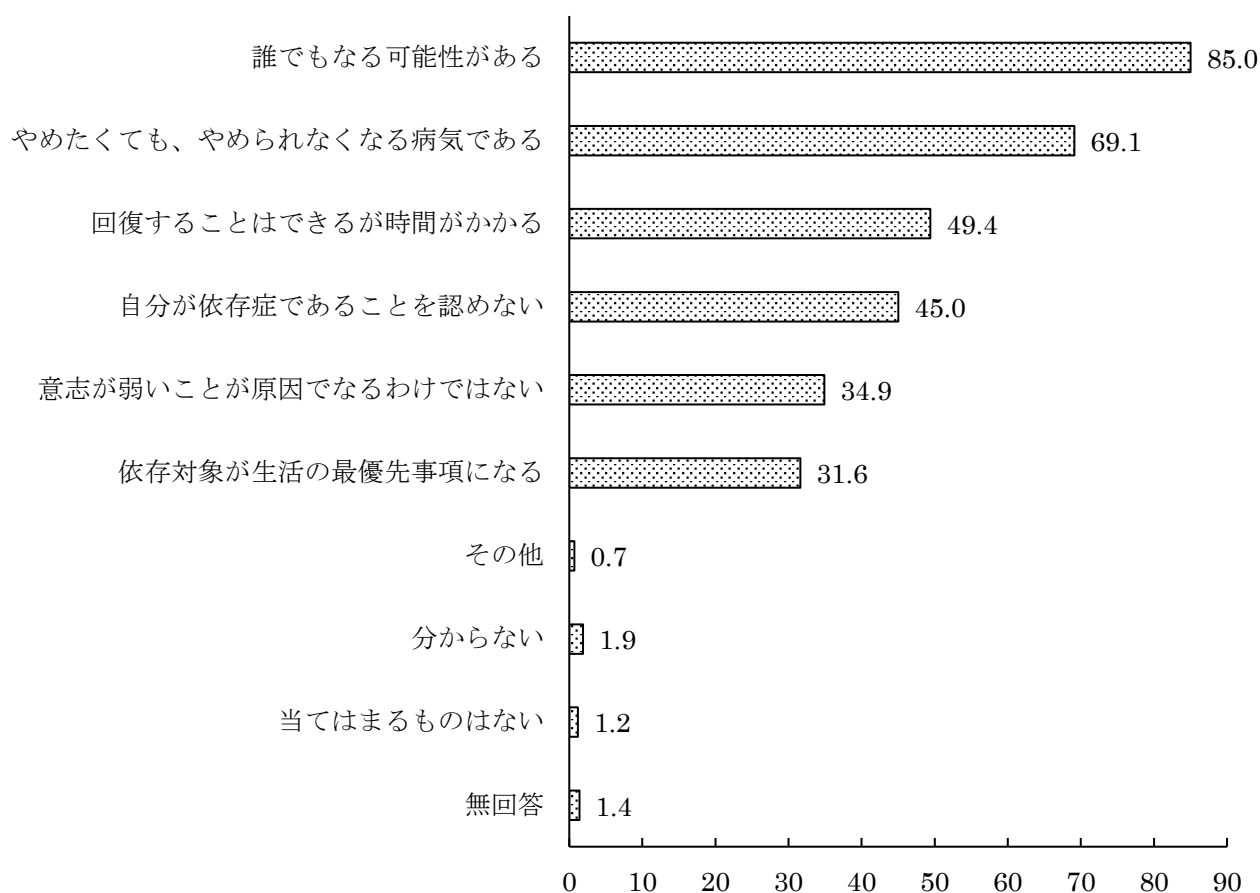
県では、アルコール、薬物、ギャンブルなどの依存症治療や回復支援及び相談体制の強化、普及啓発、医療連携体制の構築を図り、依存症対策を総合的に推進しています。今回、依存症に対する意識に関する認知状況などについて調査しました。

▼依存症に対する意識に関する認知状況（問 36）

依存症について、あてはまると思うことを複数回答で尋ねたところ、「誰でもなる可能性がある」が 85.0%で最も多く、次いで「やめたくても、やめられなくなる病気である」が 69.1%であった。

[図表 13]

図表 13 依存症に対する意識に関する認知状況（複数回答）（n=1,277）（%）



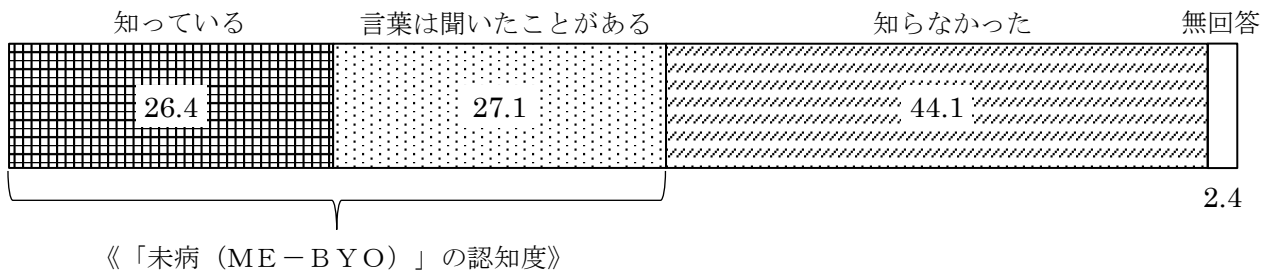
14 「未病改善」の取組み（問 39～問 42）

県では、「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組みを進めています。「未病」とは、健康と病気を2つの明確に分けられる概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものとして捉え、このすべての変化の過程を表す概念です。今回、「未病（ME-BYO）」の認知度などについて調査しました。

▼「未病（ME-BYO）」の認知度（問 39）

「未病（ME-BYO）」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」（26.4%）と「言葉は聞いたことがある」（27.1%）を合わせた《「未病（ME-BYO）」の認知度》は53.5%であった。一方、「知らなかった」が44.1%であった。[図表 14]

図表 14 「未病（ME-BYO）」の認知度（n=1,277）（%）



15 思いやりのある社会（問 43）

県では、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方が援助を得やすくなるようにしたマークである「ヘルプマーク」の普及・啓発を進めています。今回、「ヘルプマーク」の認知度について調査しました。

▼「ヘルプマーク」の認知度（問 43）

「ヘルプマーク」を知っているか尋ねたところ、「知っている」（65.6%）と「マークを見聞きしたことはあるが、意味は知らなかった」（10.5%）を合わせた《「ヘルプマーク」の認知度》は76.1%であった。一方、「知らなかった」が22.2%であった。[図表 15]

図表 15 「ヘルプマーク」の認知度（n=1,277）（%）

